

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4073400394		
法人名	株式会社 コムス		
事業所名	グループホーム コムスのほほえみ太宰府		
所在地 (電話番号)	太宰府市大佐野460 (電話) 092-918-6681		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成19年7月26日	評価確定日	平成19年9月12日

【情報提供票より】(19年7月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 13 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 7.2~7.8 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	鉄骨	造り
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	<input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有( 204,000 円) <input type="radio"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	円	実費精算	

(4) 利用者の概要 (7月11日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	0 名	要介護2	6 名		
要介護3	7 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.2 歳	最低 73 歳	最高	95 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 津田内科、鹿子生整形外科医院、有野歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地の中にあり、二階建ての落ち着いた印象のグループホームである。一階には広めのテラスがあり、ゆっくりくつろげる。また入居者には、比較的介護度の重い方もおられるが、行政や地域の支援を求めながら、その中で職員は理念を念頭に前向きな対応を行っている。特に各種書類への実名表記はせず、個人情報保護を徹底している。母体となる企業の管理体制やマニュアルもしっかりしており、常に入居者の尊厳と自立支援に向けた取り組みを実践している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>最終報告書を全員で目を通し、改善点に対しては率直に受け止め、前回調査以降すみやかに、職員全員で改善を行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を行うことにより出てきた、介護に対する考え、認識の違いによる衝突、職員間のコミュニケーションの充実、などを新たな課題として認識し、今後の取り組みに期待したい。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は定期的開催しており、議事録もよくまとめている。今後さらに独自のサービス向上に結びつくような内容の討議や、公的機関からの委託事業の受託、地域権利擁護事業、成年後見制度等の活用に向けての取り組みに期待する。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>コムス(グッドウィルグループ)問題が、いまだに方向性が見えておらず、家族は先行きの不安を拭えずにいる。家族への日常の報告、意見・提案の掬い上げなどきめ細かい配慮を希望する。また、定期的なお便りの復活、意見箱の設置に期待する。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>公民館を利用して様々な会議を行ったり、地域の方に協力していただいている。運営推進会議には区長や民生委員も数人名を連ねる。夏祭りやその練習などにも参加している。入居者が近くの民家でお茶をご馳走になる、という事もあるなど、近隣には理解を得ている。太宰府市の窓口とは、相談や報告も行っている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	コムスン全体の理念のほか、この「コムスのほほえみ太宰府」独自の理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	館内の見やすいところに理念を掲示、職員にも機会あるごとに説明、職員はよく意味を理解して実践に努めている。また家族や運営推進会議に対しても説明をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館を利用して様々な会議を行ったり、地域の方に協力していただいている。運営推進会議には区長や民生委員も数人名を連ねる。夏祭りやその練習などにも参加している。入居者が近くの民家でお茶をご馳走になる、という事もあるなど、近隣には理解を得ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価については、最終報告書を全員で目を通し、改善に努めた。トイレの場所の表示の明確化や、床(フローア)の汚れなどの改善点に対し、非常に率直に対応している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的を開催し、議事録もよくまとめている。		今のところ、会議の内容が、福祉の制度の内容や、グループホーム全体のことにに関する議題が多いようである。独自のサービス向上に結びつくような内容の検討にも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	サービスの幅を広げる提案を太宰府市にしたり、些細な事故報告も太宰府市に行ったり、市の担当者との交流は図れている。		さらに、市からの委託事業を受けたり、ボランティアを受け入れたり、といったサービス向上につながる取り組みを希望する。
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度についての勉強会を行うことがなく、職員の理解度は低い。		現在活用している入居者がいないとはいえ、今後は必要なケースも出てくると思われる。重要事項説明書の中に、成年後見制度について書かれていない。重要な課題であるだけに、職員の理解を深め、提案、活用へと結び付けていくことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話で随時報告、相談している。金銭管理は立替方式をとっており、1ヶ月毎に請求書と該当分の領収証を送付している。家族への報告の重要性は理解しているが、現在定期的なお便り(家族便り)の発行が途絶えている。		お便りの復活、そして軌道に乗せることが望まれる。
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コムスのコールセンター、面談による口頭での訴え、本社によるアンケートを掲げているが、家族が意見を投げかける場が少ないように思われる。		意見箱の設置など、家族の意見、不満、苦情などを掬い上げるための工夫に期待する。また、意見は必ず管理職員まで報告する体制づくりが望まれる。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者の動揺につながらないように工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に対しての特定の排除はしていない。また、職員用のPCメール「目安箱」を運用している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動  法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	本社での研修は行っているが、職員等に対する人権教育や啓発活動に取り組むには至っていない。		社外での研修を利用したり、ホーム内での教育などにより、職員の意識向上に期待したい。
13	21	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内に研修のシステムが確立されている。また受講者は、職員に報告とフィードバックを徹底している。		社外研修については、個人負担で自由に参加することになっているようであるが、個人及びチームのレベルアップを図るのも重要であり、個人負担の軽減の検討がなされることに期待したい。
14	22	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協会に加盟しているにとどまっている。		同業者との交流も、レベルとサービスの向上のうえで大切であり、今後の課題として検討が望まれる。
<b>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に至るまでは、家族や紹介者、ケアマネジャーなどと、可能な限り時間をかけて話をし馴染めるようにしていくが、急な入居では、サービスの中で馴染んでもらう、という状況になっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	重度化した入居者が多い中、介護をする、という感覚ではなく、一緒に過ごす、できることは一緒にする、という立場の関係を築いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に入居者や家族の希望を聞き、本人本位で検討した結果をアセスメントシートに整理し、職員が共有している。内容は現状に照らし合わせている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族だけでなく、職員の意見やアイデアを反映させた介護計画を作成している。月1回ケアカンファレンスを行っている。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の見直しに加え、状況・状態の変化等に応じて、随時ケアカンファレンスにて話し合い、その都度家族承諾のうえ介護計画を作成している。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームとしてできることは柔軟に対応している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の従来のかかりつけ医を継続、事業所として適切な診療が受けられるよう支援している。状況や家族の希望等により、事業所の提携医への受診もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	個別の状況の把握は難しいが、一応の説明はしている。まだ終末期の入居者はないが、その人に応じて、できることの限度を説明することに重点を置いている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	注意を払っている。書類などはすべて実名での表記はせず、入居者全員4文字のアルファベットで記載している。また個人情報にかかる書類の破棄については、シュレッダー利用以外、鍵のかかるボックスを使って業者に引き渡す方法をとっており、かなり念入りな取り扱いをしている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の状況を確認しながら、希望をもとにその日の活動の支援をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食時の職員数が不足している。重度の入居者がいることもあり、調理や配膳、服薬等に職員がつきっきりになっている。居室で食事を取っている方もおり、目が行き届いていない。また職員は、入居者と一緒の食事をしていない。		一緒に介助しながら食事を「楽しく」することが理想と考える。あと数人の職員の支援が望まれる。
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝早くになることもあるが、各入居者の希望を重視し、身体状況等を配慮してスケジュールを組み、支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	重度の入居者が多く、料理の準備や掃除などの役割や散歩などの企画を用意しても、参加できない。そのためか、あまり場を設けない姿勢がうかがえる。		以前は1階の花壇で草花の栽培もしていたとのこともあり、少しずつ入居者への場の提示を増やしていくことが望まれる。
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	重度の入居者では外出はなかなか難しい。買い物も職員が単独で行い、レクリエーションの外出も、年に数回の企画どまりとなっている。定例的な外出は、通院が唯一の機会になっているようである。		近隣は、住宅あり田んぼありで環境にも恵まれており、買い物等の便も良い。家族の協力も必要かとも思うが、外出支援に期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はしていない。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時の避難訓練は行っているが、地震など他の災害に関しては想定したことがない。		マニュアルの整備や、火災以外での避難訓練も実施し、日々地域の方の協力を得られるように働きかけることが大切である。職員配置が手薄になる時間帯を想定した訓練マニュアルも必要である。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー摂取量など綿密な計算をしているわけではないが、日々の献立は、計算された本社からのレシピを参考に行っていることから、栄養バランス、摂取水分量と併せて、概ね問題ない食事を用意している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は光が差し込み、明るい空間となっている。不快なおいにも気を配っている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベッド、テレビ、仏壇など、持ち込み自由である。食器なども、自分の使い慣れたものを使っている。		